

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171500499), 法人名 (社会福祉法人 七飯町社会福祉協議会), 事業所名 (グループホーム ひだまりの家1), 所在地 (亀田郡七飯町字中野210-2), 自己評価作成日 (令和3年11月26日), 評価結果市町村受理日 (令和4年3月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、コロナ禍において、様々な制限がある中、基本理念に基づき、住み慣れた町でその人らしく過ごしていただけるよう、入居者様本位と尊厳を大切に、日々の関わりで努めております。今後、通例である家族会や地域町内会の活動等が再開された際には、また相互の参加を通じて、グループホームへの理解を深めていただけるよう、すすめてまいります。そして、入居者様、ご家族様の安心感を確かなものとする為、職員一同良質なサービスを提供させていただきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171500499-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年12月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は七飯町中心部から離れた、豊かな畑に囲まれた農産地に立地している。建物は変則的な2階建てで、2ユニット18名の高齢者が生活を共にしており、他に建物に併設されているデイサービスと居宅事業所を事業展開している。運営は七飯町社会福祉協議会で、介護保険施行初年の2000年の開設し、現在はコロナ禍の為、相互に自粛傾向にあるが、通例では社会福祉法人の実績を活かして様々なボランティア等の来訪を受け入れ、地域とのふれあいを大切にしながら、利用者に楽しく彩りある生活を提供している。職員は真摯で丁寧な対応に努めており、申し送りや月例の会議の場で、自由に意見、提案を述べる機会がある。また、人事考課としての個別面談の他、相談には管理者が随時対応する等、雇用形態も含め、働きやすい環境作りにも配慮している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内、名札に掲示し、日常的に理念を共有し、ケアの実践に努めている	事業所理念をユニット各所に掲示し、日常的に共有している。主に会議の場で理念への理解を深めており、日々の実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス対策の為、昨年より実施できていないが、例年であれば、地域のお祭りや文化祭に参加し、交流を行っている	通例では、積極的に地域行事に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、相互の協力関係作りに注力している。また、ボランティア等の来訪を受け入れ、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、運営推進会議や家族会等の際、地域の方々へ伝えたり、法人として、介護教室等で参加者へ発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も、コロナ感染防止の為、書面開催として行っている	通例では、家族代表や町内会、行政の参加を得ながら、定例で開催している。運営状況やヒヤリハット・事故等を明らかにし、書面開催となっている現在においても、参会者から意見を求め、回答している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課や包括支援センターとの連携に努めている	町の福祉課、包括支援センターと積極的に情報交換を行い、良好な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ対策の為、三か月に一度、身体拘束委員会を書面開催し、ユニットの現況について確認、抑制や拘束のないケアに努めている	身体拘束委員会を三か月に一度、定例で開催し、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修での学びや日々の状態観察で見過ごさないよう、注視し、努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで制度を活用されていた入居者様がいたが、今後も必要時、利用できるよう支援していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、丁寧に説明を行い、理解かつ納得を得た上で締結をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に、意見箱の設置や面会時等に意見や要望を伺うことで、運営に反映できるようにしている	コロナ禍の工夫として、リモート面会などの整備、案内を行っている。また、毎月、個別のお便りを送付し、写真を交えて生活の様子、体調面等を伝えるとともに、積極的に意見・要望を聞き取り、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に、または個人面談の際に意見等を聞き、反映に努めている	毎月の職員会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、皆で検討し、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は定例の個別面談の他、、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の現況を把握、評価し、より良い就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価シートの活用や面談にて個々の力量を把握し、育成への取り組みを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ウェブや資料を通じて、情報収集・交換がなされ、サービス向上に向けて取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人が希望・必要とすることを傾聴・共感し、信頼関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、家族の意向を聞いて、ケアの方向性を導き出し、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にアセスメントを行い、必要な支援を見極め、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存機能が発揮できるよう、日常的な家事作業と一緒にいき、感謝の意を伝え、共に暮らしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を尊重しながら、ケアの方向性を相談したり、協力をいただき、連携を取っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策で、制限はあるが、現在緩和を経て、可能な範囲で関係性の継続に努めている	コロナ感染防止に留意しながらリモートやガラス越し等、多様な面会方法を検討し、馴染みの方が気軽に来て頂けるような環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性に配慮し、互助の良好な関係を保てるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、電話での相談や連絡の支援を行ったり、逝去時にお見送りをさせていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、話しやすい雰囲気を作り、思いを聴き、表情や仕草から、希望や意向を把握するよう努めている	本人からどのように過ごしたいのか、具体的な希望・意向を聞き取る等、家族にも協力を得ながら、情報収集に努め、日々のケア、介護計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャー等から情報を収集し、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する本人の状態をよく観察し、把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在もコロナ対策の為、ユニット会議での話し合いができないも、日々の申し送りや書面で意見交換し、計画を作成している	利用者本位を基本に、家族、医療機関、職員の意見を反映し、計画作成担当者を中心にモニタリング結果と合わせて検討して、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に加えて、申し送りや連絡ノートを活用し、職員間での情報共有を行い、介護記録の見直しに反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応し、受診対応や移送車利用等、柔軟かつ最善なサービスの提供に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策の為、今年度も地域ボランティアの受け入れは中止しているが、今後再開を期待、予定している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医の継続受診を支援したり、往診対応も実施、相互に情報提供し、支援している	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関との連携があり、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化や異常時には、即看護師へ状態報告を行い、指示を受け、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、職員が同行、医師面談時は家族の了承を得て、看護師が同席し、今後の方向性について相談できる関係づくりをしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所の指針について説明を行い、本人と家族の意向を確認して支援の提供に努めている	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ており、家族と終末期を支えるための話し合いを重ねている。協力医療機関との連携と看護師の配置があり、家族、職員の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置、救急救命講習の受講、マニュアルにて対応を確認している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備蓄品や発電機を準備し、年2回避難訓練を実施、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、自然災害想定も含め行っている。隣接する施設や地域町内会との協力体制も含め、毎回具体的な設定を行い、備蓄・発電機等を点検しながら、災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な声かけや対応に心掛け、個々の尊厳に配慮している	不適切な言動や声掛けがあれば、職員間で注意喚起し、会議の場で話し合っている。利用者の尊厳を損ねるような対応にならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で、本人の思いや希望を引き出せるよう、また、自分で選択・決定しやすいよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに考慮し、本人の希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の利用や季節・好みに合った服装ができるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事には好みのメニューを提供したり、個々の力量に合わせて食器拭き等行っている	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切にしたい食事を心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、調理から下膳まで、食事の時を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ、食事形態や量、食器を工夫、調整し支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合った声かけ、見守り、介助を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、定時誘導、見守り等個々に合わせた対応を行っており、排泄用品についても、日中と夜間で工夫をしている	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。排泄時の自尊心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事、十分な水分補給、毎朝牛乳やヤクルトを提供したり、体操や歩行運動等の軽運動で予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や状態に合わせて対応しており、拒否のある方には、タイミングを計り、支援している	ほぼ毎日お湯はりを行い、週に2回以上入浴出来るよう努めている。拒否がある場合、無理強いすることなく、時間帯や担当者を調整しながら、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度に休息していただいたり、寝具や室温等に配慮し、日中の活動を促して、生活リズムを整え、安眠につながるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方内容を綴り、共有、見守り・介助にて確実に服薬できるよう支援しており、状態変化時は即看護師や主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で、外出や面会等の制限はあったが、個別対応にて手伝いやレクリエーション活動に、楽しく、張り合いを持って参加できるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、支援できることが限られていたが、可能な範囲で外気浴を行ったり、ホーム内に季節の生花を飾り、気分転換を図れるよう努めている	通例では個別に声掛けし、散歩や買い物等、気軽に外出が出来るよう支援している。コロナ禍であるが、閉じこもることのないよう、感染防止に留意しながら、外気浴等、心身の状態維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は施設で管理し、買い物や受診時等に支払いを支援しており、定期的に家族へ確認していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をかけたり、手紙のやり取り等支援して		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策を含め、定期的な換気を行い、四季に合わせた花や飾り物を工夫して、季節感を採り入れたり、エアコン等を使用して、空調を整え、快適に過ごせるよう努めている	リビングは採光も良く、温度や湿度が適切に管理された解放的な作りとなっており、利用者の手による四季を感じる飾り付けや行事写真で飾られている。事業所内は感染防止対策として、換気、除菌消毒を徹底しており、面会制限がある現状においても、事業所としての取り組みに家族から理解を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにおいて、ソファやテレビ、足台を配置し、雑誌を見たり、音楽を鑑賞する等落ち着ける居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が愛着のある家具等を、本人・家族と相談して配置し、居心地よくくつろげるよう工夫している	本人の思い入れある家具や備品を家族の協力を得て持ち込んでもらい、自分の部屋として安心して生活出来るよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表示し、手すりの設置やバリアフリーで安全を図り、自立支援に努めている		